フローリング施工要領書

施工前に必ずお読みください

ie-mon 株式会社 ie-mon
〒783-0004 高知県南国市大そね甲736-1
TEL：088-855-9760　FAX：088-855-9761
https://www.ie-mon-asia.net/

施工前保管方法

直射日光・湿度が高い場所での商品の保管は避けてください。長期不在等で寒気ができない場合なども湿気がたまり、反り等の原因となりますのでご注意ください。

施工前 (1 週間前) には開梱し、現場の温度・湿度になじませてください。

雨水に濡れないように保管して下さい。水分の吸収は木材膨張の原因になります。水濡れの可能性がある環境への施工は控えてください。

保管する際は、歪みを防ぐために平らな場所に均一に重ねて保管して下さい。

ご使用に関して

エアコンなどの冷暖機器、空調設備で廃棄が床面に継続的に直接あたる場合は、過度の乾燥により材の収縮、割れ等の原因となりますので当たらないようご配慮ください。

品質には万全を期しておりますが、万が一不良品や傷、色、木柄等不明な点がございましたら、必ず施工前にご相談ください。施工後のお取替えには応じられません。

壁、窓の施工が終わり、雨風等の外部からの影響を受けない状態になってから、フローリングの施工を行ってください。

施工に際しては下地の水濡れが無いこと、含水率が12%以下であることを、あらかじめ必ず確認してください。

免責事項

当社取り扱いの全商品は、納品時に不良欠陥等 (商品間違い、塗装状態、サイズ間違い、商品欠損、汚損等) があった場合はクレームの対象となり100% 補償が適用されます。クレームに対する唯一の補償は、欠陥製品の交換または代金返済です。尚、欠陥商品返送時に発生する運賃につきましては、弊社にて負担させていただきます。

施工後のクレームについては原則的に対象外となります。製品の取り外し、設置またはこうした工事に関する費用の返済は行われません。

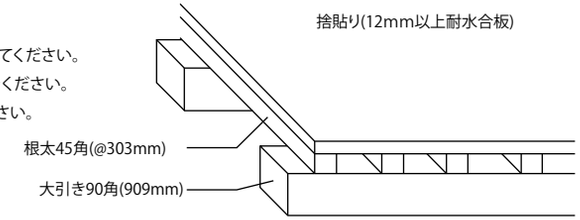
自然素材がゆえの色調、柄等の違いによるクレームは範囲外とします。

お客様都合による商品返品につきまして、商品梱包が未開封である場合にのみご相談を承ります。またご返品時に発生する運賃につきましては、お客様によるご負担とさせていただきます。

天変地異、製作状況、システムトラブル、その他予期せぬ都合により納期が変動することがございます。また、それに起因する損害が発生してとしても当社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

無垢または三層集成・複合フローリング材施工上の注意点と施工方法

- □ 大引きは 90mm 角以上、根太は 35mm 角以上の乾燥材をご使用ください。
- □ 大引き間隔は 909mm、根太は 303mm とし、水平レベルで施工してください。
- □ 下地材には 12mm 以上の耐水合板・構造用合板を必ず使用してください。パーティクルボードや石膏ボードなどへの直接施工は床鳴り、浮き上がり、突き上げ、目隙等の原因となります。
- □ 床下の湿気が多い場所や新築 RC 構造の場合は 0.1mm 以上の防湿シートを根太と捨て貼りの間に敷きこんで施工してください。
- □ 下地の不揃いやゆるみは床鳴りの原因になります。
- □ 下地の不陸のないことを確認してください。
- □ 下地合板は糊釘併用で固定してください。
- □ 含水率は 10% 以内にしてください。
- □ 床を木口継ぎにする部分の下に根太があるようにしてください。
- □ 雨濡れなどの湿った状態の下地には、施工しないでください。
- □ 下地合板の継ぎ目の段差は 0.3mm 以内にしてください。
- □ 下地合板は突付にしないでください。3mm 程度の隙間を空けてください。



②開梱・仮並べ・割り付け

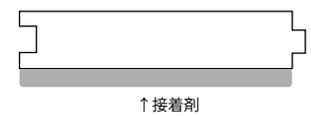
- □ 天然木を使用しているので、節や色に違いがあり、施工前に製品を仮並べし全体の色、柄のバランスを確認してください。
- □ 特に気になる節や色が入った材料がございましたら、施工前に弊社までご連絡ください。
- □ 見た目を美しくするためにも、張り込み前に割り付けを行うとより一層自然な感じで仕上がりがよくなります。
- □ 針葉樹系 (パイン等) は開梱しておいておくと、材のねじれが起こり易くなり、実が入らなくなりますので、開梱後直ちに施工を行ってください。

③フローリングの張り込み

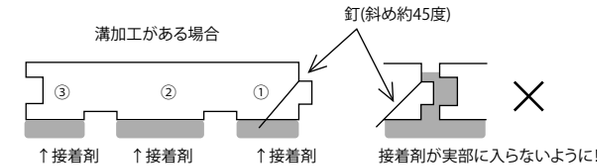
(1) 接着剤の塗布　※接着剤は床下地ではなく、フローリングの裏面に塗布してください。

- □ くし目コテを使用して、接着剤 (木床用 1 液性ウレタン系接着剤、2 液性エポシキ系接着剤) を全面に均一塗布します。
- □ 溝加工がある場合には、①釘の通過面、②材の中心、③雌実下やや内側の 3 箇所に筋状に塗布してください。(図 B 参照)
- □ 1 回の塗布量、オープンタイム、その他注意事項等はご使用の接着剤の説明書をご確認ください。※推奨接着剤 (KU928C-X コニシ社)
- □ 白ボンド等、木工用接着剤 (酢酸ビニル樹脂エマルジョン系) を使用するのは、絶対に避けてください。材の反りや床鳴りの原因となります。
- □ 接着剤は、敵将を守って使い、接着面のホコリや汚れはしっかり取り除いてください。
- □ 接着剤が床表面についた場合はすぐに拭き取ってください。
- □ 塗布の際、実 (さね) の部分に接着剤をつけないようご注意ください。実部分に接着剤が付着してしまうと、幅方向に固定されたフローリング材が一体となり、大きな隙間を生じる場合があります。(膨張収縮)
- □ スギ、ヒノキ等の針葉樹は、床鳴りが発生し易い樹種です。フローリング材裏面の隅までしっかりと接着剤をつけることで床鳴りを軽減できます。その際に実部分に接着剤が入り込まないよう、ご注意ください。

図A(床材断面図)



図B(床材断面図)



図A(床材裏面)



図A(床材裏面)

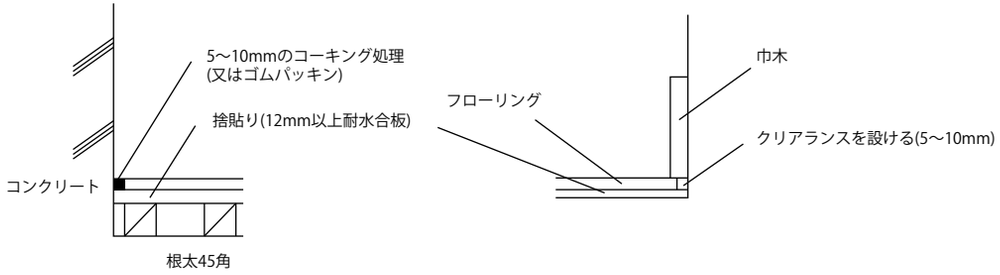


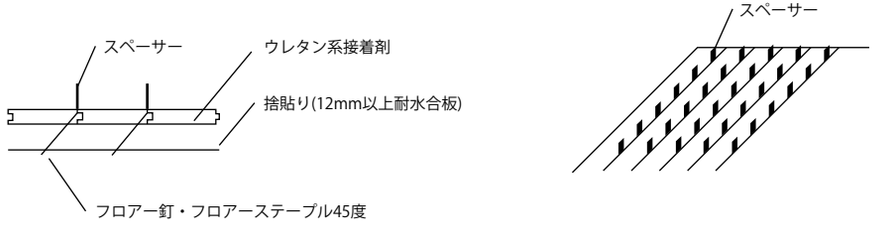
(2) 張り込み

□ フロアー釘・フロアーステープル、接着剤を併用して施工してください。
□ フローリングは構造用合板と根太に直交するように張り込んでください。
(構造用合板以外の無垢木材 [スギや荒床等] の下地を使用する場合は、下地自体が膨張収縮する可能性が高いため、フローリングと下地を同じ方向に張るとフローリング材に不具合が生じる可能性があります。)
□ 下地の不陸、段差はそのままフローリング表面の段差、突上げの原因になります。下地合板の継ぎ目とフローリングの継ぎ目は、重ならないようにご注意ください。
□ 釘の長さは板厚の約 3 倍のものをご使用し、雄実の付け根から斜め約 45 度で打ち込んでください。床鳴りの防止にもなります。
□ 釘止め標準ピッチは 300mm で、捨貼り下地でも根太の位置に釘を打つようにしてください。
(釘の足が根太に入るようにしてください。頭部が残った場合はポンチで打ち沈めてください。)
□ 敷き始めは窓際から 5 ～ 10mm 程度隙間をあけてください。(地下室や湿気の多い場所・地域では更に隙間を取ってください。)
□ 敷き終わりも窓際から同間隔の隙間を取ってください。最後に幅木で隠してください。
□ 壁がコンクリート打放しの場合や巾木厚みが薄い場合、巾木がすでに設置してある場合も窓際は同上の間隔をあけ、コーキング処理をしてください。
□ フローリング材の巾方向に、10m 以上広範囲に施工する場合は適切な隙間を設けてください。
□ はき出し窓サッシへの納め、敷居納めの場合も隙間を取りコーキング処理をしてください。
□ フィニッシュネイルの使用は絶対に避けてください。

(3) 実 (サネ) の差し込み

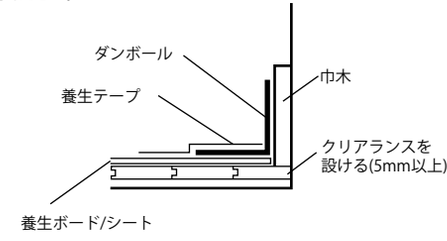
□ 無垢床材に関して、無垢材の特性である膨張収縮の観点より、基本的には通年でスペーサーを利用した施工を行ってください。
(挽板三層・複合フローリングのスペーサー使用は不要ですが、場合により施工をお願い致します。)
□ 材種、施工時期によって伸縮度合がかわってきますので、膨張・収縮の問題が起こらないような施工を行ってください
□ 膨張による突き上げを防ぐために材と材の間に約 300 ～ 600mm 間隔で必ずスペーサーをはさみ、施工を行ってください。
(エンド部のスペーサーは不要です。スペーサーはすぐに抜き取らず、接着剤の乾燥後 (約 12 時間後) に抜き取ってください。)
□ 実を差込みながらフローリングを並べ、当て木またはゴムハンマーで叩いて実を入れてから釘またはステープルを打って張り込んでください。





④養生

□ 施工後はただちに養生してください。
□ 塗装の種類に関わらず、養生テープはフローリングに直接貼らないでください。
(塗装の剥がれや変色、テープの接着剤の付着痕などの原因になります。特にオイル仕上げの場合はご注意ください。)
□ 養生の際は養生ボード・段ボールや合板などを敷いて、その上に弱粘着性養生テープのご使用をお願いします。また、弱粘着性養生テープでもできるだけ短期間で剥がしてください。テープをはがす際には、塗膜の剥離が生じる場合もありますので必ずゆっくりと剥がしてください。
□ フローリングおよび接着剤が落ち着くまで 1 ヵ月間程度は直射日光を避けてください。
□ 貼り込み施工後、標準で約 24 時間の養生期間を確保してください。
□ (養生期間内に床上を歩行すると接着不良の原因となり床鳴りなどが発生するおそれがあります。)
□ 引き続き別の工事がある場合は厚手の養生ボード等を敷き、傷がつかないように保護してください。
□ 固定はなるべく養生ボード同士を養生テープなどでつなぎ、極力床面にテープを張る面積を減らしてください。
□ 布製ガムテープやビニールテープなどは粘着力が強すぎて、フロア表面を損傷したり、変色したりするおそれがありますので、フローリングには直接貼らないでください。
□ 室内の換気は十分に取ってください。特に夏場の高温度や冬場の急激な暖房にもご注意ください。
□ 養生が不十分ですと表面や木の目に埃やチリが残り、通常のクリーニングでは取れなくなる事があるため、特に色の濃い商品の養生には十分ご配慮ください。
□ 床材が自然塗料等の仕上げ商品の場合は、ご使用の商品の説明書をご確認ください。



養生方法の一例(巾木)

⑤お引渡し前のクリーニングについて

□ 無塗装・オイル塗装の場合
水拭き厳禁です。表面が毛羽立ったり、カップ反りします。ホウキや掃除機で表面の埃を取る程度に留めて下さい。
汚れた箇所は、やすりを木目に沿って入れて除去してください。オイル塗装の場合、やすりを入れた後に同じオイルを染み込ませてください。
無塗装へのワックス厳禁ですが、オイル塗装へは専用のワックスがありますので、同じメーカーのワックスをご使用ください。
□ ウレタン塗装の場合
硬く絞った雑巾で表面を拭いてください。水が実の間に入るとカップ反りの原因になります。基本的にワックスは不要です。
ワックスを使用される場合は、見えないところで密着の確認をしてから全面に塗布してください。
□ ポリッシャーやスチームクリーナーは使用しないでください。水分を含んでフローリングが反ります。

⑤お引渡し前のクリーニングについて

□ 床上に重量物 (ピアノ等) を置く場合は、必ず床下に補強工事を行ってください。
□ 無垢材は稀に目割れ等が発生する場合があります。これは無垢材の特性なのであらかじめご了承ください。
□ 地下室や半地下室への施工は出来る限り避けてください。(防湿処置等、建築工事で対策検討ください。)
□ 実の欠けた商品も稀に混入します。その個所を避けてビス打ちしてください。
(限りある資源なので弊社ではそのような材も輸入しています。ご理解ください。)
□ 土足の環境でお使いいただく床材は、屋外から直接砂や雨・水を持ち込む場合には、入口に必ずマット等を設置して、砂や雨・水などが直接木材にダメージを与えないようにご注意ください。
□ 基本木質床材となります。その為、歩行により、床材表面に凹み傷が発生することもあります。表面の固さは木材そのものの固さとなります。他の素材にはない木材の特徴 (表情意匠・経年美化・調湿作用等) についてご理解ください。